

会長挨拶

宮下英雄

第7回全国学校飼育動物研究会が、「子どもの優しさが見える学校の飼育動物」を研究主題に掲げ、日本小動物獣医師学会の年次大会市民講座と一緒に、大阪の地で開催できますことに、関係各位のご支援、ご尽力に感謝を申し上げます。特に、獣医師会の皆さまをはじめ、大阪府、大阪市の行政機関、府議会、市議会、教育関係機関等々の皆さまに多大なご支援をいただき開催できましたことに、改めて感謝と御礼を申し上げます。ありがとうございました。

さて、今日から、この大阪国際交流センターに近い、長居競技場にて、世界陸上競技大会が開催されます。男子マラソンは、午前七時スタートでしたので、すでにゴールがなされていると伺っています。この陸上競技は、「より速く、より長く、そして、より高く」を求めて世界のアスリートたちのパワーが全開し、新記録の数々がたくさん生まれることと思います。その裏には、多くのトレーナーやパートナーなどの専門家の支えと本人の努力があって、素晴らしい記録が生まれていることと思います。高い目標と目標達成の方策と、組織力があってのことと思います。

このことは、これから始まる、動物を通しての研究会においても同じことが言えると考えます。日本の将来を担う子供たちの心身を、「より豊かに、より健やかに、より逞しく」成長することを願い、動物飼育を通して、そして専門家である獣医師の先生方のお力をいただきながら、学校、幼稚園、保育園などの教育関係者と一体になって子供の成長に寄与しようとする営みが、連携という方策と行政の組織力という支援をいただき、全国各地で広がりが見えてきたのが、この研究会であり、市民講座であると考えます。

この研究会は、第一回から、引き続いて、動物の持つ力、秘めた力を教育に、学校・幼稚園・保育園で命を実感できる動物飼育による子供の変容を、実践を通して発表を続けて参りました。どの発表の中にも、動物にかかわっている子供自身と動物には直接かかわってはいないが、友達のかかわる姿を見て、周りの子供が変わってくる様子などが、発表されていました。また、お茶の水女子大学で開催致しました第七回の研究会におきましては、動物とかかわることによって、子供が優しくなることを統計的な解析をもとに客観的に、科学性を加えながらの発表も行われ、新聞でも大きく報道がされました。確かに、動物にかかわることによって子供は大きく変わってきていることは、確かなことです。ただかかわっていれば良いのではなく、その関わり方、かかわらせ方によって大きな違いが出てくることも分かって参りました。

しかし、底辺の広がり期待とは、裏腹に考えさせられるさまざまな事象が子供と動物を巡って生じていることも確かな事実です。

先日の新聞に、「動物愛護の心を育てほしい」

という投書が記載されていました。中身を少し、紹介させていただきますと、親子連れの多い総合公園の中に「ふれあい動物園が」人気を占めているが、そこに行くとハラハラし通しで、気の休まる暇がない。地面の飼育箱からひよこやハムスターをわしづかみに取りだし、母親に見せに行く子供たち仰向けにされ、もがいているにもかかわらず「かわいいね」とニコニコ顔の親たち。動物が感じている、恐怖や苦痛を教え

てあげてほしいのに。箱に戻すときも怖い。ぬいぐるみを、玩具箱へ放り込むように、立ったままハムスターを投げ込んだ女の子。「投げちゃだめ」と思わず声が出た。ハツカネズミを一匹ずつ持ち、頭をぶつけ、「戦いごっこ」していた男の子。中学生の娘が、「だめよ」と注意したら、「なんで」と聞かれた。

生きた動物と、玩具の違いを学ぶ大切な場。子供から、目を離さずに、正しい触れあい方を教え、動物を思いやる心を育ててほしいと願った。

私は、この記事を読んで、この母親は小さいときから今日まで、動物との触れあう機会がなかったのではないかと。動物を虐待している子供と同じレベルで動物を感じ、接しているのではないかと考えさせられました。幼少の時期からの動物との触れあいが、大人になっても大きな影響を残し続けるのでは無いかと考えさせられました。

世阿弥は、花伝書の中で、有名な言葉を残しています。それは、「初心忘るべからず」です。あまりにも有名で、その言葉だけが一人歩きしていますが、世阿弥は、その続きに、中頃においても初心忘るべからずとあり、そして老いても初心忘るべからずとあります。また、諺の中には「三つ子の魂 百まで」ともあります。同様な意味を持った諺もたくさんあります。諺は、私たちの先人が、長年の経験から得た知恵をまとめたメッセージです。いずれにしても、はじめが大切であることを言及しています。なぜ、はじめが大切か。私たちが、日常生活の中で、見たり聞いたり、記憶したり学んだり、喜んだり悲しんだりする背景には、必ず脳の働きがあり、その脳に関する解明が、ここ数年で飛躍的に発展してきたからです。

成長発達の変化が著しい幼少の時期における動物との触れあいは、人間の将来を見守る大切なキーワードになってきていることを、強調できると思います。

そのような意味からして、本日ご講演いただきます、東京大学名誉教授であらせられます唐木英明先生におかれましては、動物飼育によって人間の脳がどのように、刺激され、行動を左右するのか、科学的にご講演をいただくことになっていきます。先生、宜しく御願いを申し上げます。

(聖徳大学人文学部児童学科教授)